

九州放送機器展2018 出展社情報



平成 30 年 7 月 5 日(木)~6 日(金)、「九州放送機器展 2018」(略称 QBEE2018)が一般社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)の主催にて、福岡市博多区にある「福岡国際センター」で行われた。この九州放送機器展は2004年の第1回目の開催から数えて、本年で15回目となる。

会場となった「福岡国際センター」はJR博多駅や福岡国際空港から地下鉄やタクシーで約15~20分、福岡都市高速道路からも至近と交通の便の良い場所である博多湾に面した一大コンベンションセンターエリアの一角にあり、出展社は全国各地より、また来場者も地元福岡のみならず、九州全域と中国・四国地方にもおよび、回を追う毎に開催規模を拡大して、この催しが九州のみならず西日本地区を代表する放送機器展となっている事が伺える。

本年は建物の1階と2階の両フロアを使い、①オーディオ機器関連ゾーン ②映像・放送機器関連ゾーン ③照明ゾーンの3つのゾーンとカメラステージにて構成されており、正面入口からみて突き当たり中央にはカメラステージがあり、例年この展示会の見所の1つとなっている。

また、本年も昨年同様に入口からの人の流れを2階に誘導するように工夫が凝らされ、大学・専門学校ブースやアウトレット販売コーナー、照明ワークショップなどが設けられた。

開催期間中には、主催者開催のセミナーとして色彩工房オフィスHIRO「カラーリストによるグレーディングクリエイティブセッション」/株式会社IMAGICA「ポストプロダクショ



オープニングセレモニーの様子(左)と開催の挨拶をした三上信一 JPPA 会長(上)

ンサウンドエンジニアが作成する高解像度立体VR映像のambisonics sound」/日本放送協会 放送技術局「4K8K放送に向けて、いま我々が考えておくべきこと」/株式会社NHKメディアテクノロジー「8Kテクネクリエーターとの映像制作」/アストロデザイン株式会社「8Kコンテンツのあり方についての研究と映像制作ワークフローの解説」などが行われた。

一方、出展者開催のセミナーとしては、MEDIAEDGE株式会社「ローコストかつハイパフォーマンスを実現 自主放送+文字放送+L字放送システムのご紹介」/MARTIN AUDIO JAPAN Inc.「セルラー革命」/ソニービジネスソリューション株式会社「新4K60pハンディ&FS5 IIのご紹介とインスタントHDRワークフロー」/株式会社ジョリーグッド「放送外収入の切り札はVR! 必ず売れる! VRビジネスセミナーと最新ソリューション紹介」/ゼンハイザージャパン株式会社「SENNHEISER ワイヤレスマイクのトラブル原因と対策」/ジャパンマテリアル株式会社「BrightSign4K対応新製品、XT/XD シリーズ4のご紹介」/タックシステム株式会社「ノイズ除去の定番iZotope RX とMA業務を効率化するPost

Production Suiteのご紹介」/株式会社Spectee「AIによるニュース制作の最新トレンド」/アスク/ディストーム「eSportsにおけるTriCaster使用事例」/東芝メモリ株式会社「撮影素材を情報漏えいから守るSDメモリーカードのご紹介」/キヤノンマーケティングジャパン株式会社「Cinema EOS SYSTEM 最新情報」/三友株式会社「NAB Show 2018 最新情報 Pocket Cinema Camera 4K、ATEM TelevisionStudio Pro 4Kを中心に」[DaVinci Resolve 15 編集、カラー、MA、合成が一体となった総合映像編集ソリューション」/アビッドテクノロジー株式会社「4K、HDR、HDのワークフローをスピードアップ~新しいMedia Composerファミリーのご紹介~」などの各社によるセミナーが行われた。

各地の放送局では2020年に向けてスタジオサブを更新していく動きが見られ、それに向けて出展各社では12G-SDI、4K/8K対応の製品紹介が多数見受けられた。

なお、同展開催前や開期中に西日本を襲った台風と豪雨の影響で、主流の来場者と思われる西日本の放送局では緊急報道体制を敷いていたとみられ、残念ながら今年の来場者は、2,278名とのことであった。



会場入口にはストロベリーメディアアーツの「Black Hole 9B」が設置された



開期中に数多くのセミナーが行われたセミナー会場



本展初開催となった「YouTuberトークショー」

アストロデザイン

8K 撮影・編集・制作ソリューション、MMT/TS ソリューション、4K/HD 放送ソリューションを展示。ファイル伝送 & 放送バックアップ伝送システムや4K インターフェイスボード & 4K インサータのシステム展示をはじめ、シャープ8Kカムコーダー「8C-B60A」、グラスバレー「HDWS-8K」、や Digital Projection 社の Insight Laser 8K プロジェクターなどの 8K 関連製品を一同に介して出展した。

■ Digital Projection 社 Insight Laser 8K プロジェクター：アストロデザイン、台湾 Delta Electronics 社及び同社グループ傘下の英 Digital Projection 社の 3 社は、共同プロジェクトにより世界初となる DLP 8K プロジェクターを開発した。シネマプロジェクトで定評のある英 Digital Projection 社の基盤技術をベースに、アストロデザインが従来から培ってきた 8K 映像技術を盛り込むことで、従来の、「暗い」、「重い」、「設置が大変」といったプロジェクトにまつわる概念を打ち破る、画期的な製品を実現した。

プロジェクトとしては圧倒的な 25,000 ルーメンという高輝度を実現するため、DMD 3-Chip 方式を採用し、光源をランプではなくレーザーを採用。ダイナミックレンジは HDR (HLG)、色域は BT.2020 にも対応する。また、デルタグループが培ってきた高い熱対策技術により、光源を完全に密閉する事に成功した。光源を密閉する事で 2 万時間という長寿命を実現させている。



INSIGHT LASER 8K プロジェクタ

天井吊り、台置き、双方に対応する。難しい調整など一切なく、設置完了後すぐに起動、上映することができる。

以上の様な従来にない数多くの特徴を持ったプロジェクトで、アストロデザイン(株)は本製品の国内総販売元となっている。

■ シャープ 8K カムコーダー「8C-B60A」：世界で初めて 8K(60p) 映像の「撮影」「収録」「再生」「ライン出力」が可能なカメラ/記録部一体型の業務用 8K カムコーダーで、アストロデザイン(株)の技術協力を得て開発した。

本機は、高精細な 8K(60p) 映像の撮影が可能だけでなく、撮影・収録時の扱いやすさや収録後の編集作業の負荷低減にも配慮した設計を行っている。撮像素子は、3,300 万画素の Super 35mm 相当の大型 CMOS イメージセンサを搭載し、圧縮方式には CPU 負荷の低いコーデックを採用。8K(60p) 映像の編集作業の効率化と約 40 分間の連続収録(同梱の 2TB SSD パック使用時)を実現している。

また、映像を収録しながら、8K(60p) の非圧縮映像をリアルタイムで出力できるため、ライブ配信にも活用できる。

世界初となる 1 台で 8K(60p) 映像の「撮影」「収録」「再生」「ライン出力」を実現。3,300 万画素の Super 35mm 相当の大型 CMOS イメージセンサによる 8K(60p) 撮影に対応。8K(60p) の 4:2:2 方式※6/10bit 収録を実現。CPU 負荷の低い圧縮方式を使うことで、収録後の編集作業を効率化、約 40 分間の連続収録(2TB SSD パック使用時)が可能。収



シャープ 8K カムコーダー「8C-B60A」



ファイル伝送 & 放送バックアップ伝送システム



Positium 社製 HD/4K モニタ, マルチビューワ



4K インターフェイスボード & 4K インサータのシステム展示

録と同時に 8K(60p) 非圧縮映像の出力ができて(クアドリンク 12G-SDI 出力端子装備)、8K ライブ配信などに使用可能。収録後の再生出力に対応。収録メディア用の SSD パックスロットを内蔵、V マウントバッテリー駆動により、8K 撮影時におけるワンマン運用を実現。などの特徴をもつ。

■ その他

○ 8K ビデオサーバー【NEW】

- ・ SR-8428 : 8K 240p の 4 時間連続ループ収録と同時再生に対応
- ・ SR-8438 : 8K 60p の 8 時間連続ループ収録と同時再生に対応
- ・ Grass Valley HQX Codec を搭載、高画質で長時間の収録を実現

○ 4K インサータ HD-1679【NEW】

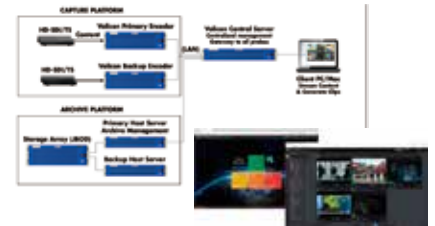
12G-SDI スーパー 最大 8ch 対応 4K インサータ

○ 4K コンバータ SB-4024-A/4027/4031:3D-LUT 対応コンバータシリーズ

Volicon | verizon digital media services

「法定同録だけじゃもったいない」

Volicon Observer® MIP(Media Intelligence Platform®) なら、法定同録、マルチ画面モニタリング、ファイル品質チェック、アーカイブ中でもクリップ編集が可能、web、SNS 等へのファイル切り出しアップロード作業を共有し作業を簡素化できます



製造元：
Verizon digital media services

輸入販売元：
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●http://www.network-electronics.co.jp

オタリテック

IP ベースのリモート制作用オールインワン・ソリューションLAWO「V_remote4」をはじめとして、昨年発表された最新ワイヤレス・インカム・シリーズ RIEDEL「Bolero」、英国プロフェッショナル・モニターの老舗ブランド PMC「twotwo」を中心に展示紹介。また、オタリ Lightwinder Broadcasting シリーズの新製品を参考出品した。

■LAWO「V_remote4」: IP ベースのリモート制作用オールインワン・ソリューションで、映像/音声信号伝送と WAN ベースのリモート制作のプロセッシング要求に応えるワンボックス・ソリューションとなるように設計され、Video-over-IP コーディングに始まり様々なモニタリング/プロセッシング・ツールにいたるあらゆるものを備えている。

貴重なラックスペースとセットアップ時間と制作コストを節約しつつ放送の柔軟性を高めるツールを提供することを目的として設計されている。

バーチャル・ケーブリング能力を備える「V_remote4」は IP インフラの利点とコスト削減をすぐにもたらし、比肩するものない高度の柔軟性と拡張性を実現している。

今日の IP ネットワーク・テクノロジーの性能と成熟を手にした Video-over-IP と Audio-over-IP と Control-over-IP は、様々な用途で採用され始めている。放送制作の次の大きなステップの1つと見なされるようになっていくリモート・ライブ制作では、IP は基本的な要求事項になりつつある。信頼性の高い低遅延かつ高画質の映像を会場からスタジオに手頃なコストで送り返せることが必要とされる。LAWO「V_remote4」は今日の IP ベースのリモート放送制作というビジョンを実現させる理想的なツールで、双方向の4チャンネル Video-over-IP インターフェイスと4系統のローカル SDI 入出力、ならびに WAN または LAN を介して映像/音声を放送制作

用に収集する際に一般的に必要なあらゆるプロセッシング・ツールを1つにまとめた製品である。

■最新ワイヤレス・インカム・ソリューションRIEDEL「Bolero」: ライセンスフリーの 1.9 GHz 帯を利用する拡張可能な DECT ベースのフルローミング・インカム・システム。RIEDEL「Artist」デジタル・マトリクス・インカム・プラットフォームと完全に一体化される「Bolero」は、優れたワイヤレス・ベルトパックとしてまたワイヤレス・キーパネルとして、そして業界初でウォークトーカー無線機としての3通りの使い方を実現できる豊富な機能と接続能力を備えている。AES67 規格準拠の IP ネットワーク上で動作し、分散型アンテナが AES67 スイッチに次いで AES67 クライアント・カード搭載の「Artist」フレームにつながって、シームレスなローミング能力を持つ一体型の1対1インカム・システムとなる。システムにとってベルトパックは RIEDEL 製のパネルのように見えるがそれはワイヤレスであり、柔軟にシステムを構築することが可能になっている。

明瞭度の高い「Bolero」のボイス・コーデックは優れた理解度を実現し、RF スペクトルをさらに有効利用できるようにして、他の DECT ベースのシステムと同じ音声帯域幅でアンテナが2倍のベルトパックを扱えるようにした。このコーデックは優れた遅延特性を持つと同時に処理パワーを極めて効率的に利用し、ベルトパック・バッテリーの持ち長くし、DSP の処理パワーを他の機能用にセーブすることができる。

■オタリ「LWB-24/LWB-72」:「あらゆる現場の要求を追究し、LWB は根本から進化する」をコンセプトとして、600 台以上の国内導入実績を持つ光ファイバーシステム LWB に待望の次世代機が登場した。



PMCスピーカーの紹介コーナー(写真は新製品「result6」)

- ・スタジアムや広大なフィールドをカバーする24台接続/2048チャンネル伝送
- ・効率性を高めるモジュール単位でのサンプリング周波数設定
- ・マルチドロップ・ルーティング可能な内蔵4チャンネル HD-SDI ビデオ・モジュール
- ・マトリクス・ミキサー/シグナル・ディレイ機能
- ・細部まで利便性を追求した仕様互換性/新モジュール/レトロフィット・キット

■2ウェイ・リファレンス・モニター PMC「twotwo」: 真のリファレンス・モニターの製造メーカーPMCから一まったく新しい「twotwo」シリーズは PMC 社が持つ世界第一級の設計の伝統を洗練されたデジタル信号処理とアクティブ・アンプと組み合わせた驚くほど正確で多機能なコンパクト2ウェイ・リファレンス・モニター・シリーズ。

「twotwo.5」「twotwo.6」「twotwo.8」の3モデルから構成されるこのシリーズは、最新鋭の技術とコンポーネントを用いて英国国内で設計製造され、その結果、プロフェッショナルなコンパクト・モニターに相応しい並ぶものない明瞭さと無色透明さと正確さが達成されている。

「twotwo」シリーズの各モデルは同じコア・デザインと特徴を共有する一モデル・ナンバーは低音用ドライバーの大体のサイズ(インチ)を表しており、番号が大きくなればキャ



LAWO「V_remote4」



インカムソリューション RIEDEL「Bolero」



オタリ Lightwinder「LWB-24/LWB-72」

オタリテック

ビネットの体積が増え、低域は下へと伸び、SPL 能力はより高くなる。

PMC の細部への心配りは「twotwo」シリーズの設計すべてにわたって明らかであるが、コンパクトな製品シリーズになかった新しい特徴が、ステレオ・イメージと音色の正確さを犠牲にすることなく縦置きと横置きの両方で使用できることである。そのため、「twotwo」シリーズは、OB バンや小規模ラジオ・オンエア・スタジオ、TV の音声調整室、音楽のプロジェクト・スタジオ、ビデオ編集およびポストプロダクション・ルームといったスペースが貴重な状況での音楽や声のニアフィールド・モニタリングやA & R での評価用に最適となっている。

- ・ATL™ベース・ローディング・テクノロジーを備えた真のコンパクト・リファレンス・モニター
- ・クラスをリードする接続能力アナログおよび192 kHz までのデジタルの両方
- ・高効率の最新鋭デュアルClass-D アンプ
- ・ドライバー応答とクロスオーバーとEQ を制御する強力なDSP エンジン
- ・様々な配置が可能一縦置きと横置きのどち

らでも申し分なく動作
・ダイナミクスと中立さを得べくPMC が自社設計製造した精密ドライバーなどの特徴を持っている。

なお、本展においては、PMC モニタースピーカーNEW モデル「result6」の紹介を行った。

■トライアングル・カプセル・メンブレン・コンデンサー・マイクロフォン Ehrlund「EHR-M」：北欧スウェーデンで誕生したアールンドは特許技術トライアングル・カプセル・メンブレン（三角形振動板）を用いた世界で唯一のハイエンド・マイクロフォン・ブランド。

ラウンドのメンブレンではなしえない振動収束の短さで、他に類をみない低域のスピード感とシャープな音質のオリジナリティ溢れるサウンドを実現している。

- ・ラウンド型メンブレンと較べて圧倒的な共振の少なさを実現したトライアングル形状のメンブレンで音声をより正確にキャプチャー
- ・ステレオ・マッチングが不要な

一貫した位相カーブを持つ「リニア・フェイズ」プリアンプ

- ・全体的に濁りの無い極めてクリアでシャープな音質とスピーディーな低音域のレスポンス
- ・高い感度を保ちながら極めて低いセルフノイズを実現
- ・アルミニウム製の軽量ボディを採用し、ヴォーカル、ドラム、ギター、ピアノ、クラシック録音などスタジオ・レコーディングをはじめ、ライブ・ステージ、ヴォーカル・マイクなど様々なアプリケーションに適用



本展初登場のプロ用マイクロフォン「ROSWELL PRO AUDIO」(左)と「Ehrlund」(右)



各社製品が並んだマイクロフォンとヘッドフォンの視聴コーナー

九州放送機器展会場内にて



1階ロビー特設会場では小型スピーカー試聴会が行われた

ますます多様化するフィールドで応える柔軟さと確実性

FB
FourBit

株式会社
フォービット

〒358-0014
埼玉県入間市宮寺 2720
TEL : 042-934-7720
FAX : 042-934-5664
TEL : 042-935-0551 (営業部直通)
URL : <http://www.fourbit.co.jp>

PMX-1210

12 × 10 ポータブルデジタルオーディオミキサー
税抜価格 ¥ 1,950,000



- アナログライクな操作性 見た目そのままの安心感
- EIA19 インチラックに実装可能 外形寸法 W420 × H160 × D460
- カスケード接続による入力チャンネル増設
- AC 電源と DC+12V 電源併用によるリダンダント動作
- マスターアウトのラウドネス計測機能
- TB マイク、モニタースピーカー 内蔵
- ビデオ同期 / ワードクロック同期 / デジタル入力同期

朋 栄

NAB Show や内覧会に出展した12G-SDI 関連新製品をはじめ、最新の4K 対応製品群・ソリューションを展示。会場では、スタジオサブシステムに向けた4K ビデオスイッチャー、ルーティングスイッチャー、マルチビューワーや、テロップ・ファイルベース、バーチャルシステム、ビデオライター、4K 素材バックアップに向けたLTO サーバーや、関連会社ビジュアル・グラフィックス(VGI) から高性能共有サーバーシステムを紹介した。

1. スタジオサブシステム

■ 4K 対応ビデオスイッチャー「HVS-2000」: ライブイベントから中継車、スタジオサブまでさまざまなシーンで活用できるビデオスイッチャー。標準24 入力/18 出力から最大48 入力/18 出力または40 入力/22 出力まで拡張可能。最大12 入力の4K ビデオスイッチャーとしても活用可能。

■ ワンタッチコントローラー「OTC-1000」: キューシートによる素材管理により、進行順リストに従った送出運用が可能。(協力: リバアフィールド)

■ ルーティングスイッチャー「MFR-4000」: 全ポートが12G-SDI に対応可能で、最大72 入力×72 出力のマトリクス構築が可能なルーティングスイッチャー。Quad link 3G-SDI と12G-SDI を相互変換するGearbox 機能を持つ入出力カードも利用可能。電源ユニット、CPU 基板の冗長化に加え、本体2 台の並列稼働も可能な高い堅牢性を実現。

■ マルチビューワー「MV-4300」: 12G/3G/HD/SD-SDI、アナログコンポジット、HDMI、DVI の混在入力や、各種解像度の混在入力にも対応したマルチビューワー。最大68 入力、8 系統出力に対応。HDR/SDR 簡易変換機能により、HDR 本来の輝度や彩度に近い状態で簡易モニタリング可能。

2. テロップ/ ファイルベース

■ マルチチャンネルビデオサーバー「MBP-1000VS-G2」: 記録用SSD とMPEG-2 ハー

ドウェアコーデックを4/6/8 基搭載したビデオサーバー。コーデック搭載数に応じた同時収録または同時送出が可能。コーデックの半分を収録に、残り半分を送出に割り当てることもでき、エンコード中の追いかけ再生にも対応。さらに、2 系統のテロップ出力機能を搭載。動画のプレアウトに合わせてテロップ素材を送出したり、動画とテロップの合成出力が可能。

3. 信号処理

■ 12G-SDI/HDR/WCG 対応シグナルプロセッサ 「FA-9600」: 12G-SDI 対応シグナルプロセッサ。標準でHD 2 系統のフレームシンクロナイザー、カラーコレクター、プロセッサンプを利用可能。オプションで4K 1 系統への対応をはじめ、HDR/WCG の各種変換、アップ/ ダウン/ クロスコンバーター、12G/3G 変換、2SI/SQD 変換など、各種機能を搭載可能。FA-9600 の変換設定に応じて、4K HDR ディスプレイの設定も自動で切り替えることが可能なVideo Payload ID 連動機能¹⁾ を搭載。

⁽¹⁾ SMPTE 規定のPayload ID Colormetry Bit による設定変更に対応したディスプレイが必要。

4. バーチャルシステム

■ リアルタイムカメラトラッキングシステム「StarTracker」(Mo-Sys 社): 天井や床にマーカーを貼るだけで、バーチャル/RCG 運用における精度の高いセンサー環境を構築可能。センサーユニットと共に、リアルタイム・ポジション・データを算出する小型プロセッサを搭載。初期セットアップ後は、日々の運用での調整が容易。

5. ビデオライター

■ ビデオライター「FVW-700」: 映像を確認しながら、タッチパネルディスプレイやWi-Fi 接続した複数のタブレットから、同時にフリーハンドで文字や図形を描画可能。指定色の上だけに描画するクロマキー機能や、自由曲線が交差する時は外郭部を認識して描画するエッジ結合機能を搭載。

■ CG 送出装置「MBP-200TB2」: ケーブル



1 本で接続したPC にインストールされたさまざまなCG アプリケーションと連携し、専用CG 送出機を用意することなく、テロップやRCG、ビデオライター、クリップサーバー (動画送出) などを実現可能。

6. 4K 素材バックアップ

■ LTO サーバー「LTS-80」: 4K 時代に求められる大容量のアーカイブやバックアップサポート。最大転送速度300MB/ 秒(2.4Gbps) のLTO-8 ドライブを搭載し、LTO-8 テープ (最大記憶容量12TB(非圧縮時)) にデータ保存可能。外部ストレージからの高速データバックアップ、LTO テープと外部ストレージ1 カ所に同時コピーも可能。

■ 高性能共有サーバーシステム「EditShare Xstream EFS 300」: 関連会社のビジュアル・グラフィックス(VGI) が、高性能共有サーバーシステムを出展。3U 筐体のEFS300 は、シングルノードからスタートし、大規模なプロダクションニーズにも簡単にスケールアウト対応が可能。

7. 4K 切り出し/ フラッシュ光増減補正

■ 4K 切り出し装置「ZE-ONE」: 4K 映像からタッチパネル操作で任意の部分の切り出してHD 出力。FT-ONE シリーズと組み合わせ、スロー再生しながらズームインする演出も可能。指定したオブジェクトをリアルタイムに自動追尾するオートトラッキング機能を搭載。

■ フラッシュ光増減補正装置「RFC-ONE」: フラッシュ光を自動で検出し、リアルタイムに違和感のない自然な映像に自動補正。オプションのリモートコントロールユニットにより、設定されたメモリの読み出しや、2 台同時の制御が可能。



ビデオライター「FVW-700」



高性能共有サーバーシステム「EditShare Xstream EFS 300」



リアルタイムカメラトラッキングシステム「StarTracker」(Mo-Sys 社)

タックシステム

セミナーにて、「iZotope RX とMA 業務を効率化するPost Production Suite」を紹介。また、ブースではコストパフォーマンスに優れたHD-SDI 信号用のミニ・コンバータ・シリーズなどで定評のある「Decimator Design」より昨年発売されたマルチビューワー「DMON-QUAD」と、ポケットサイズのSDI to HDMI 双方向コンバータ「MD-LX」など各種製品を。

また信頼性の高いKVM システムとして世界で導入されている「ADDER」からは、スタジオワークの利便性を向上させる、IP ベースのKVM マトリクス「INFINITY シリーズ」を実際の使用環境にて展示した。そのほか、Sonnet Technologies のThunderbolt 3 接続の PCIe 外部拡張ボックス新製品「eGFX Breakaway Box」なども紹介した。

■ Decimator Design 製品

1 to 16 マルチビューワー「DMON-16S」:
DMON-16Sは、(3G/HD/SD)-SDI 16系統の入力、(3G/HD/SD)-SDI と HDMI 出力を持ち、カスタムレイアウトが可能。8 CH オーディオメータ・オーバーレイ機能搭載。

4 x (3G/HD/SD)-SDI to HDMI コンバータ / 1 to 4 マルチビューワー「DMON-QUAD」:
3G/HD/SD-SDI 4 入力を4分割表示するマルチビューワー表示、または、択一選択されたSDI 信号を出力するセクターユニットとして利用が可能。コンパクトなボディーとDC 電



Decimator Design「DMON-16S」「DMON-QUAD」「MD-LX」の紹介コーナー

源供給およびフレキシビリティに富んだフォーマット対応によって中継現場などに最適なコンバータ。出力ソース選択は、GPI ポートへ外部スイッチを接続することも行える。**SDI / HDMI 双方向コンバータ「MD-LX」:** ポケットサイズのSDI ⇄ HDMI 双方向コンバータ。入力によって下記の動作モードに自動設定。SDI 入力 > SDI/HDMI 出力・HDMI 入力 > SDI/HDMI 出力・SDI 入力 > HDMI 出力 & HDMI 入力 > SDI 出力・ポケットサイズ 60mm x 73.7mm x 23mm・USB による電源供給 と コントロール / FW アップデート・USB ケーブルと USB 電源アダプター付属

■ **ADDER 製品:** 現在最も信頼性の高く技術的に先行しているKVM (キーボード・ディスプレイ・マウス) システムを提供する英国 ADDER 社は、高解像度のKVM エクステンダー「XD-522」の新しいファームウェアの4K 対応および、低価格帯のKVM マトリクス「XD-IP」を発表した。「XD-IP」は、Infinity シリーズの流れを踏むIP ベースのKVM マトリクスで最大8x8 のマトリクスまでの小規模なシステム化に最適で、マネージメントユニットの必要もなくPOE ネットワークスイッチからの電源供給でシステム構築が可能なコンパクトな設計となっている。

また、PC 側に接続する送信側のユニットにもKVM を接続して操作環境が組め、送信側と受信側の区別がないためシステム変更時に使い回すことができるなどフレキシブルなシステムとなっているため、従来のエクステンダーと切り替え機や分配器といったシステムの組み方に代わり、安定したKVM 環境を自由に構築できる。

■ **Sonnet 「eGFX Breakaway™ Box」:** Thunderbolt 3 接続のPCIe 外部拡張ボックス「eGFX Breakaway Box」は大型で消費電



ADDER infinity シリーズ紹介コーナー

力の高いグラフィックプロセッサカードを収容するために特別に設計されたThunderbolt 3 接続のPCIe 外部拡張ボックス。高性能なデスクトップコンピュータ用のグラフィックプロセッサカードをThunderbolt 3 ポート経由で接続することで、外部グラフィックプロセッサに対応したコンピュータのグラフィック性能を簡単に底上げすることができる。VEGA 64 やFrontier Edition を含むAMD Radeon™ R9、RX シリーズやNVIDIA® GeForce® GTX 9、10 シリーズ、及びTITAN X、Xp、V 等のポピュラーなグラフィックプロセッサチップセットを搭載した全てのThunderbolt 互換カードをサポートする4つのモデルのラインナップが用意されており、AMD Radeon Pro WX 5100、WX 7100、WX 9100、SSG やNVIDIA Quadro GP100、P4000、P5000、P6000 等の最新のプロ用グラフィックプロセッサカードにも対応している。また、グラフィックプロセッサカード以外のThunderbolt 互換PCIe カードを安価に拡張するシステムが必要な場合にも手頃な価格で導入が可能である。



Sonnet 「eGFX Breakaway™ Box」

MOGAMI LAN CABLE

モガミ イーサネット ケーブル

敷設-撤収を繰り返す可動的用途専用LANケーブル

PA/屋外使用等、敷設・撤収を繰り返す可動的な用途向けに特別に設計したイーサネットケーブルです。柔軟なため床に平らに引き回せ、通常のフィールドワークに耐える十分な機械的強度があります。特性値はTIA/EIA-568B Category 5e を完全に満足します。

RJ45コネクタとの接続に工夫が要りますので通常は両端にコネクタを付けた形で販売致します。受注時の長さは最大300mまで自由に指定出来ます。不具合発生時の無償修理保証期間は1年ですが、保証期間後も有償でコネクタの取り付けを致します。コネクタ付け替えに際してはその都度先端切り落とし部分の長さが短くなります。

Part No.
3306

MOGAMI



お問い合わせ エムアイティー株式会社

PHONE: (03)3439-3755

E-MAIL: mit@mogami.com

URL: http://www.mogami.com

伊藤忠ケーブルシステム

多岐にわたる製品群の中から、編集共有サーバーでは Avid [NEXIS シリーズ]、4K 編集システム Avid [Media Composer] / Grass Valley [EDIUS]/Adobe [Premiere]、音声ポン出し・編集システム MORSON [CLASS-PAD]、KVM 統合監視システム IHS [Draco シリーズ & Tera Viewer]、モバイル中継システム Smart-telecaster [Zao-S]、低遅延 IP 映像伝送装置 Haivision [MakitoX]、ファイルベース自動QCツール Venera Technologies [Pulsar]、ファイルベース・クオリティチェッカー Turbo Systems VBit Note]、CATV 局向け番組自動放送装置 Video Tech [VATIC]、クラウドサービス [eVERY : エブリ] などを出展した。

■ Venera Technologies 社ファイルベース自動QCシステム「Pulsar」: さらに拡大するファイルベース制作ワークフローにおいて、大量のファイル取り込みから配信/納品までの各ポイントにおける品質管理は益々重要になってきている。2003年創業以来、すでに世界で150以上のユーザーの獲得実績を誇る、[Venera Technologies 社]のファイルベースQCシステム「Pulsar (パルサー)」は、豊富な対応フォーマット、独自に柔軟な設定が可能な解析テンプレート

機能、オペレータの省力化をサポートする各種自動化機能などを備えた、費用対効果の高い自動QC ツール。用途ごとにチェックが必要とされる各項目を高速に、確実な一貫したチェックを行い、解析し評価を行う。

多くの現場オペレータからの意見を取り入れた使いやすく直感的なユーザーインターフェイスと分かりやすいと評価の高いレポートデザインが特徴であるが、今年度内にはエラーレポートの日本語化対応を予定している。

再生オプションとして本アプリケーション用にカスタマイズされたプロフェッショナルメディアプレーヤーとして有名な「Gray Meta 社Iris」を使って解析後の映像確認を行うことができる。

またQCシステムの解析のキモとなるテンプレートの作成についても分かりやすいサンプル画像の表示などの機能によって作成が容易になっている。

定型テンプレートについては [Venera Technologies 社]独自あるいはメーカーとのタイアップから作成された解析テンプレートが標準で供給され、それをベースにカスタマイズすることにより、安定稼働までの時間短縮を図ることが可能になっている。

DPXの連番チェック対応やHLS / Smooth



Streaming フォーマットなどのAdaptive Bitrate コンテンツの解析にも対応し、蓄積データ、配信データの両方に幅広く対応した汎用性の高いQCシステムとなっている。

光点減解析では国内デファクトスタンダードになっている「英国ケンブリッジリサーチシステムズ社」のハーディングエンジンをオプション追加することが可能になっており、同社製品と同じ解析エンジンを使っての輝度、赤色、パターンなどの光過敏症発生リスク評価をOfcom (英国)あるいは NAB-J (民放連)のガイドラインに沿った形で解析評価をすることが可能となっている。

今回の九州放送機器展では、QNAP 社NAS上に同社のVirtualization Station を使い仮想Windows 環境を構築し、「Pulsar (パルサー)」を動作させるデモンストレーションを行い、解析元データの転送が発生しない高速で省スペースなNAS とQC 環境の一体型運用提案を展示し多くの反響があった。



TerraBlock 共有ストレージ ウルトラハイパフォーマンスSSD/HDDシステム

- ・マルチストリーム4K編集
- ・幅広いクライアントOSに対応※1
- ・クライアント追加ライセンス不要
- ・Webブラウザ経由でアクセス
- ・Avid/Adobe/Appleメディア共有
- ・8/16/32Gbitファイバー対応
- ・1/10/40Gbitイーサネット対応
- ・DynaRAIDによる高効率データプロテクション※2※3
- ・リモートマウント/アンマウント機能
- ・アセットトラッキングアプリ FastTracker付属
- ・帯域履歴のモニタリング機能



※1 Windows 7/8/10 Mac OS 10.7~10.13
Linux 2.6.18+ RHEL/SUSE/CentOSに対応

※2 RAID 0/1/5/50/51に対応

※3 RAID5ボリューム作成時有効容量は90%



伊藤忠ケーブルシステム株式会社

クロスメディアソリューション本部 TEL.03(6277)1854

〒141-0022 東京都品川区東五反田3-20-14 高輪パークタワー

グラスバレー

NAB2018 においては、「HDR」「クラウド」「IP」をキーフォーカスとして、同社のライブプロダクション、ニュース、コンテンツデリバリー、ネットワークといった各種ソリューションを中心とした製品群のデモを行ったが、本展ではノンリニア編集システム「HDWS 4K3」をはじめ、4K/HD クロスコンバーター「Kudos Pro UHD シリーズ」、クロスコンバーター「UHD-1000」などを紹介。また、同展のアストロデザインブースにて「HDWS-8K」モデルを出品した。

■ノンリニア編集システム「HDWS 4K3」：EDIUS Workgroup の最新バージョンを展示。プロジェクトにカラースペースの設定が可能になり、より効率よくHDR対応の編集が可能になった。また、EDIUS のプロジェクト

設定に合わせ、モニターのカラースペースをコントロールする機能も実機にて紹介。

「HDWS 4K3」シリーズは、Grass Valley が誇る 4K 対応 EDIUS ターンキーシステムの最新シリーズ。最高スペックの性能を追求したフラッグシップモデル「HDWS 4K3 Elite」と、幅広い4K編集の要求に応えるメインストリームモデル「HDWS 4K3」がラインナップされている。4K/60p Quad-SDI 出力に対応したプレビューインターフェース、業務用ノンリニア編集ソフトウェア「EDIUS Workgroup 9」との組み合わせにより、快適な4K編集環境を実現することができる。

- ・ネイティブ4K編集を可能にする最高水準のワークステーション
- ・業務用ノンリニアビデオ編集ソフトウェア「EDIUS Workgroup 9」
- ・多彩なI/Oハードウェア
- ・安定した動作と安心の保守サービス

■4K対応フォーマット・フレームレートコンバーター「Kudos Pro UHD 1100/UHD 1200」：12G-SDI(UHD 1200 でのみ対応)/3G Quad Link(SQD/2SI)/HD-SDI に対応したUHD/3G/HD/SDのアップ/ダウン、インターレース/プログレッシブのフォーマット変換、およびフレームレート(24Hz, 50Hz, 60Hz)変換プロセッシングユニット。



アストロデザインブースでは「HDWS-8K」モデルを出品



「HDWS 4K3」

SDR, HDR および Rec709, Rec2020 の WCG 相互変換サポートして、Analog Audio I/O インターフェース付きモデルも選択可能な製品である。

■4K対応クロスコンバーター「UHD-1000」：SAM (スネル・アドバンスト・メディア) ブランドの製品であったが、本展では、同製品にて4KからHDにダウンコンバートした映像を紹介。(写真下)



製品の詳細、仕様等は弊社 WEB をご覧ください

モーション処理の完璧さが高画質の要

Alchemist Live

<アルケミスト・ライブ>

Motion-compensated Framerate Conversion for Live Media Streams

圧倒的な高画質 Alchemist 動き補間フレームレート変換 4K 対応で登場!

- SD/HD/1080p 3 チャンネル、もしくは 4K 1 チャンネル変換
- WCG(Rec2020/Rec709)、SDR、HDR(HLG/PQ/sLog-3/HDR10) 変換対応
- 3 G-SDI (UHD 4K Quad link)、Level-A/B、SQD、2SI 対応

IP(SMPTE ST.2022/ST.2110) 対応機種 ※近日発売予定

Perfection
in Motion



Kudos Pro

<クードス・プロ>

UHD1200 / UHD1100

UHD-1 4K Video & Audio Processor

ローコスト・高機能 HD⇄4K コンバーター
スムーズで美しいリニアモーション対応フレームレート変換を
SD/HD/UHD アップコンバート・ダウンコンバートの両方で実現

- WCG(Rec.2020/Rec.709)、SDR、HDR(HLG/PQ/sLog-3) 相互変換対応
- Level-A/B、SQD、2SI 対応
- 12G-SDI(*UHD1200 のみ)、AES、Analog Audio I/O 対応機種あり



カナレ電気

同展にて、ケーブルとコネクタにビデオパッチ盤、光コンバータを加えた12G-SDI伝送路のトータルソリューションを提案した。

近々はさらなる新製品が発表される予定で、既に発売されている製品とあわせて概要を紹介する。

12G-SDI対応製品について：12G-SDIは、HD-SDI (2k・1080i) に比べ8倍、3G-SDI (2k・1080p) に比べ4倍の情報量(帯域)を伝送できる伝送方式 (4K・2160p) であり、SMPTE ST 20 82-1 で2015年に規格化された。

規格では伝送に使用するケーブル、コネクタとリターンロスについても規定されており、ケーブルは特性インピーダンス75Ωの同軸ケーブル、コネクタは75ΩBNC型コネクタ、かつリターンロスがトータル伝送路で4dB以上と規定されている。

信号帯域が12G-SDI信号になってもできるだけ従来同様の同軸ケーブルとBNC型コネクタで100mまで伝送したいという市場要望に応えるため、ケーブルとコネクタの材料、構造および製造方法を見直しして新製品の開発を行った。

■ 75Ω 同軸ケーブル

放送局内のスタジオ用途として広く使用されてきた代表的な同軸ケーブル「L-5CFB」は、HD-SDI、3G-SDI信号を100m以上伝送可能であったが、12G-SDI信号では伝送距離はおおよそ68mと大幅に短くなる。このことから、「L-5CFB」と同等のケーブル外径(7.7mm)で12G-SDI信号を100m以上¹⁾伝送可能な同軸ケーブル「L-5.5CUHD」を開発した。

・構造：同軸ケーブルは、同心円上に中心導体、絶縁体(誘電体)、外部導体、被覆という構造からなっている。“伝送距離を伸ばす=減衰量を小さくする”ためには単純にケーブルを太くすれば良いと考えられがちであるが、そこには特性インピーダンス、遮断周波数、機械的強度などのパラメータや、取り扱いのしやすさなどさまざまな点を考慮する必要がある。

「L-5.5CUHD」はそのような点を考慮してつくられた製品である。

・使用材料、構造および製造方法の最適化：使用材料、構造および製造方法の最適化を行うことにより、製品形態や施工方法は従来どおりで、12G-SDI信号を100m伝送する(40dB以下@6GHz)という目標を達成することができた。本ケーブルは、放送市場における同サイズの同軸ケーブルとしては現時点で最も低減衰なケーブルで、市場でも評価が高い。

・ラインアップ：「L-5.5CUHD」は12G-SDI対応のL-UHDシリーズのフラッグシップモデルとして開発されたが、ユーザーニーズを調査した結果、同じシリーズで太さの違う2種類のケーブルの要望があった。

主にラック内など短距離伝送用として、より取り扱いやすく細いタイプのケーブルと、多少太くても100m超の伝送が可能な長距離伝送用ケーブルである。

そのため、短距離伝送用ケーブルとして、5.5mmのケーブル外径という細さで12G-SDI信号の約60m¹⁾の伝送を可能とした「L-3.3CUHD」を発売し、11.1mmのケーブル外径で約150m¹⁾近くまでの12G-SDI信号伝送を目標とした長距離伝送用ケーブルの「L-8CUHD」を現在開発中である。

これらの12G-SDI対応ケーブルでHD-SDI、3G-SDI信号を伝送することも可能。現在はHD-SDI、3G-SDIのシステムでも、将来12G-SDIのシステムを導入する予定がある場合は、これらのケーブルを敷設しておけば将来にわたりさまざまな状況に対応することができる。

■ BNC型プラグ

従来どおりの使いやすさを維持しつつ、12GHzで15dBのリターンロスを達成した。

・リターンロス：26dB@3GHz、20dB@6GHz、15dB@12GHz

・形状：ロングスリーブ形状、絶縁体ロック機構など、カナレ製BNCコネクタ



の特徴を継承している。

・構造：外部コンタクトのたわみによる内径変化を極力抑え、特性インピーダンスの安定性向上を図っている。

・特長：メスコネクタと本体のがたつきを極力抑え、かん合時の安定性向上を図っている。

■ BNC型基盤取り付けリセプタクル

リターンロス性能以外にも、形状と使いやすさを重視した。

・リターンロス：20dB@3GHz、15dB@6GHz、10dB@12GHz

・形状：ライトアングルタイプ、(ストレートタイプを現在開発中)

・特長：パネルへの取り付けはねじ止めのため、パネル前面から容易に取り付けることができる。さらに高密度実装を可能とする省スペースな設計となっている。

■ ビデオパッチ盤

ケーブル、コネクタと同様、ビデオパッチ盤に関しても従来品と同様の使い勝手で12G-SDIに対応する製品の要望があった。

内部にスイッチ機能を備えた二連ビデオジャックと、そのビデオジャックを組み込んだビデオパッチ盤で、結合終端型と分離終端型の2種類が必要になる。また、中継車でも使用可能なように高密度かつ軽量でなくてはならなかった。ニーズに応えるためには、使用する部品の材質やビデオジャックの構造、またパネル自体の構造まで全てにわたり現行品からの見直しが必要となったが、12G-SDIに対応できるビデオパッチ盤を完成させることができた。

¹⁾伝送距離はケーブルの標準減衰量から計算された伝送距離の目安で、伝送を保証するものではない。



エーティコミュニケーションズ

コプハム社の「EXPLORER-8100」車載アンテナを搭載した日産エルグランの衛星通信車の実車を展示したのをはじめ、本展ではABC朝日放送に納入した「SWE-DISH DA-120」衛星アンテナを搭載したトヨタハイエースロング・ワイド・ミドルルーフ車、中京テレビに納入した「CCT120」搭載のSR4ランクルSNG車の紹介などを行った。

そのほか、製品の単体展示では、小型可搬型アンテナ「EXPLORER-5075GX」、世界最小超小型平面アンテナ「SATCUBE」、ポータブルアンテナ「QCT90」、衛星通信装置「CCT-120」などを出品した。

展示した日産エルグランの衛星通信車は、コプハム社「EXPLORER-8100」1mの



「EXPLORER-8100」を搭載した日産エルグラン衛星通信車の外観と車室



車載アンテナを搭載し、5名定員でドライバーと衛星通信オペレーターがワンマンで行えるスマート・サテライト・ニュース・ギャザリング車の後方ラックにiDirect社エボリューション中継システムの子機となる端末も装備された仕様となっている。搭載している「EXPLORER-8100」は、搭載車両には特別なルーフ構造を必要とせずに車種を問わず設置でき、これにより車高2.2m以下を実現している。特徴は、堅固な構造であるにもかかわらず軽量コンパクトで、全ての主要な機能はカウル内に装備されているので、車内への配線が容易。簡単に、優雅に、かつ敏速に、遠隔地からの伝送が可能となる。

また、「SATCUBE+Ku」は、重量わずか8kg、Kuバンド衛星を使用し、約5Mbpsの伝送が可能。単方向映像伝送から、インターネットアクセス用双方向通信ができ、内蔵バッ

テリーで3時間の連続運用が可能となっている。敏速な操作性で一分以内に通信開始、IPブロードバンドとの高い親和性、6Mbps、簡単な操作-Web GUI上での簡単な衛星捕捉、10/100 Base-T LAN対応、過酷な環境化でも使える設計などの特徴をもつ。



「QCT90」「CCT-120」をはじめ、実車展示した日産エルグラン衛星通信車や各社に納入した車種のパネル展示を行った

超小型平面アンテナ「SATCUBE」



超小型平面アンテナ「SATCUBE」

テクノハウス

九州の光通信事業者であるQtnetとの共同出展。「QTMobile」の紹介やEVERTZ「光伝送モジュール7700シリーズ」を展示紹介。

また、IOI製「4K解像度コンパクトカメラモジュールFLARE 4KSDI」「4K HDR 12GコンパクトカメラモジュールVictorem 4KSDI-Mini」、AVIWEST製「ライブ中継アプリケーションMOJOPRO/APP」「UHDエンコーダHE4000」「H.265/HEVCエンコーダPRO3シリーズ」、DHD audio「52/TXタッチミキサーXS2 I/O Core」などのほか、同社が昨今取り扱いを開始した「Sound4」製品も本展にて初登場した。

Sound4は30年の歴史を持つ会社で、オーディオプロセッサや、IP伝送などのPC用サウンドカードの製造を行っており、最近になってその技術を活かしたハードウェアの販売を始め、これまでのノウハウを詰め込んだコストパフォーマンスに優れた製品を販売している。本展ではFMオーディオプロセッサ「IMPACT」とボイスプロセッサ「BigVoice2」の2製品を展示紹介した。

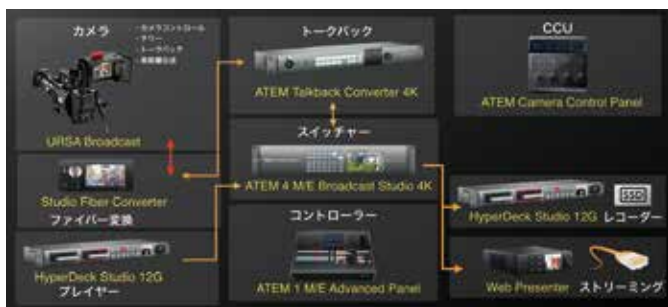


ラックに収納して展示したSound4「IMPACT」「BigVoice2」



DHD audio「52/TXタッチミキサーXS2 I/O Core」

三友/ブラックマジックデザイン



三友とBlackmagic Designは共同ブースにて「Blackmagic Design製品による12G-SDI(4K60P)対応ライブワークフロー」(写真上)を中心に紹介。シネマ用レンズ「Leica CINE LENSES」、シネマ用NDフィルター「TRUE ND」、業務用3D 360°VRカメラ「KANDA Obsidian」、タイムコードを簡単同期する「Tentacle SYNC E」、ポータブルビデオアシスト装置「OktoMag」、Thunderbolt3対応RAID「EclairPRO」、放送・業務用の映像・音声機材の専用ケース「PortaBrace」などを展示紹介した。

また、セミナーでは「Pocket Cinema Camera 4K、ATEM Television Studio Pro 4K、Mini Converter UpDownCross HD」など、多くの新製品を発表した。



◀Pocket Cinema Camera 4Kは4K DCI 60fps、Cinema DNG RAW、Pro Resに対応し、13ストップのダイナミックレンジを搭載した新しいコンパクトな4Kシネマカメラ。

リーダー電子

NAB SHOW で発表した波形モニターとラスタライザーの新ラインナップ「ZEN」シリーズを主体に出展。ZEN は、12G-SDI までの SDI 信号と IP 信号に対応したハイブリッドタイプの波形モニター「LV5600」/ラスタライザー「LV7600」と、SDI 信号に特化したコンパクトタイプの波形モニター「LV5300」/ラスタライザー「LV7300」の4機種で構成



されている。

「LV5600」は、フィンチタッチパネルを搭載した3U ハーフラックサイズの波形モニターで「LV7600」は1U フラックサイズのラスタライザー。映像信号は SD ~12G までの SDI 信号と IP 信号に対応している。測定監視機能は、映像から音声、IP 伝送に至るまで様々な項目に対応している。

映像信号測定は、CIE チャート、アイパターンの表示やHDR 測定などに対応し、音声信号測定は、レベルやリップシンク、ラウドネス測定などに対応。また、IP 信号への対応は、伝送エラーの監視やパケットジッターの測定など、伝送品質(QoS) 監視機能を強化している。「LV5300」は、バッテリー駆動可能で携帯性を考慮した波形モニターで、「LV7300」は



1U ハーフラックサイズの省スペースなラスタライザー。

ZEN シリーズは、本体とオプション選択によりユーザーの使用目的や環境にあった製品にカスタマイズできる。

その他新製品は、シンクジェネレーター「LT4611」を展示。1U の筐体に二重化電源を標準で装備しており、12G-SDI 出力、PTP、GPS ロック、タイムコードなど豊富なオプションから機能をカスタマイズできる製品。

スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト

デジタルミキシングコンソール STUDER「Vista 1 Black Edition」をはじめ、LAWO のオールインワン IP ベースリモートプロダクション「V_remote4」、NTT エレクトロニクス の H.265/HEVC UHDTV/HDTV コーデック「HC10000」、AVID スポーツ中継システム「Fast Serve | Live Edit」、GHIEMMETTI 社 AES チェンジオーバーなどの各社製品を紹介した。

■ STUDER「Vista 1 Black Edition」：放送用オールインワン可搬卓「VISTA 1」の低価格モデル。スペックはそのままに、シンプルなフェーダーとブラックパネルを使用してコストダウンを実現している。

入出力や DSP 等、音声品質に関する部分は「VISTA 1」と全く同じハードウェア構成のまま、フェーダーをシンプルなタイプに変更し、デスクサーフェイスをブラック・パネル仕様とすることで、さらなるコストダウンを達成、従来の VISTA 1 から、さらに一段リーズナブルで驚異的な低価格を実現した。

22 及び32 フェーダー仕様、二重化電源及び Lexicon エフェクター標準装備、メーターブリッジ・オプション等、フェーダーとブラック・パネル以外の仕様は「VISTA 1」と共通であり、まさに画期的なコストパフォーマンスである。



STUDER「Vista 1 Black Edition」

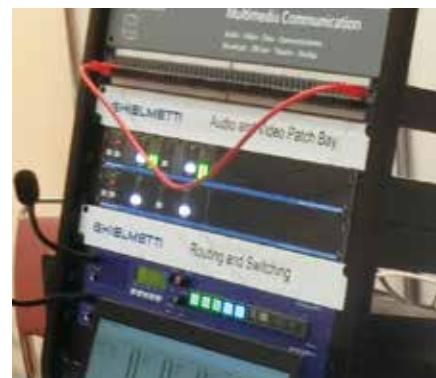
■ NTT エレクトロニクス「HC10000 シリーズ」：高画質リアルタイム H.265/HEVC エンコーダ/デコーダの「HC10000 シリーズ」は、世界のメージャースポーツイベントにて多数使用されている H.264/AVC エンコーダ/デコーダ「HV9100 シリーズ」の高画質・高機能・低遅延・高安定性を受け継ぎつつ、自社開発 ASIC によりクロマ4:2:2、H.265/HEVC に対応するリアルタイムエンコーダ/デコーダである。

ASIC を使用することで小型・低電力化、高安定性、低遅延を実現。H.265/HEVC により高画質を保ちつつ低ビットレート化が可能で、使用帯域を低減し伝送コストを抑えられる。DVB-ASI 伝送だけでなく IP 伝送に対応。安定した映像伝送を実現するため冗長が可能なシームレスプロテクション機能等に対応し、IP ネットワークにてパケット・ロスや極端なジッターがあっても、コンテンツの質を損なうことなく高品質な伝送が可能である。



高画質リアルタイム H.265/HEVC エンコーダ/デコーダ NTT エレクトロニクス「HC10000」

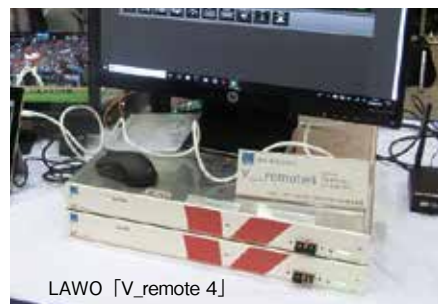
■ LAWO「V_remote 4」：WAN ベースのリモートプロダクションで、ビデオ及びオーディオ信号の処理と転送などすべての要件に対応するオールインワンソリューションを提供できるように設計されており、Video-over-



GHIEMMETTI Multimedia Communication, オーディオ & ビデオパッチベイ、ルーティングスイッチャ

IP コーディングから、様々な監視及び処理ツールまでのアプリケーションが含まれている。ラックスペース、セットアップ時間、制作コストを節約しながら、ブロードキャストアプリケーションの柔軟性を向上させるツールを提供する目的で設計されている。

また、今日の IP ベースのリモートブロードキャスト制作のビジョンを達成するための理想的なツールで、2 系統の双方向4チャンネル Video-over-IP インターフェイス、4 系統のローカル SDI 入出力、および WAN または LAN 経由でビデオおよびオーディオを放送制作に提供する際に通常必要とされるすべての処理ツールを組み合わせている。



LAWO「V_remote 4」

ニューエックス

Cinedeck 社の「cineXtools」はNLEから完パケファイルを出した後に、リテイク作業は業界の常識、NLEで修正し再度全編レンダリングする無駄な時間を大幅に削減することが可能なスタンドアロンアプリケーション。



MAなど音声の書き直しには非常に有効。マルチクリップインサート機能、オーディオバージョン管理ツール、タイムコードの再ストライブ機能を搭載。対応解像度とコーデックは、SD~4K / XAVC / XDCAM / AVC / ProRes / DNxHD・HR。

ATECH FLASH TECHNOLOGY 社の「BLACKJET UX-1」は撮影ファイルのインGEST・編集・またはアーカイブに適したThunderbolt3対応のメディアリーダー・ライター。メディアはSSD (RAID 0、RAID 1、JBOD対応)、CFast 2.0、XQD 2.0、CF、SDXC、microSDメディアカードをサポート。Thunderbolt 3経由で最大40Gb / 秒の転送速度を持つ。

株式会社CISの「VCC-4K2」は1インチCMOSグローバルシャッターを搭載し、4K/60Pを実現した小型カメラ。CIS社独自の画像処理アルゴリズムClairvu™により正確な色補正、偽色を低減した色補完によりRAWデータをPCで現像した場合に匹敵する高品位な画像を生成。3G-SDI x4で出力。「VCC-HD3」は1080/60Pを実現しW 29mm、H 29mm、D 77mmの超小型のFull HDカメラ。VCC-4K2と同じ画像処理エンジンを搭載し3G-SDIで出力。



共信コミュニケーションズ

Avidソリューション (Media Composer/DNxIQ/NEXIS | PRO/Interplay/ProTools) : 4K/HD (HDR) 対応ローコスト編集システム/トータルワークフロー4K/HD (HDR) 対応ローコスト編集システムに加え、NABで発表になった新商材 MediaCentral (管理)・FastServe (インGEST) の紹介を行った。Avid NEXISによりワークフロー強化及びアセットマネジメントが可能になった。

ハイエンドソリューション (SGO Mistika) : 4K・8K (HDR) 対応のハイエンドフィニッシングシステム及びVR、VFXアシストソフトウェアアシストシステム「Mistika」はオンライン編集、VFX、カラーグレーディング、ステレオスコピック3D、デリバリーをひとつのシステムにおさめたトータルポストプロダクションシステム。NABで発表した「Mistika」の新機能を紹介した。

アーカイブソリューション (DaAlps) : 動画文字解析コンテンツ管理システム入力から出力までコンテンツの管理、解析、アーカイブをおこなえる。AIを利用した動画文字解析、自動Tag付け機能を有したコンテンツ管理システムを紹介した。



フォトロン

Avid製品では4K HDR対応ノンリニア編集システム「Media Composer」、ビデオI/Oインターフェイス「Artist;DNxIQ」のほか、共有ストレージ「NEXIS | E4」による4K HDR映像制作ワークフローを実機で紹介。また、高速インターネットを介してバーチャル編集環境を実現する「Media Composer | Cloud VM」を出展した。

EVS製品では「ライブ中継からネット配信までをカバーするEVSライブプロダクション」をキーワードに、4K/HDライブプロダクションサーバ「XT4K」と、収録映像を汎用ファイルフォーマットでバックアップ・転送・リストアする「XFile3」による中継制作ファイルベースワークフローを提案。マルチアングルのビデオ判定用プレビューシステムである「Xeebra」と併せ、スイッチング、スローリプレイ、テロップといった中継制作に必要な機能を搭載したワンマンプロダクション「X-ONE」を九州エリアに初出展。スタジアムビジョンから小中規模のライブ中継、ネット配信まで幅広くカバーする。

さらに、世界中の放送局での使用実績を持つリアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt」と、TrackMen社のイメージベースカメラトラッキングシステム「VioTrack F coded floor」による、可搬性が高く手軽にAR演出をおこなう方法を九州で初めて紹介。また、スポーツ中継などで威力を発揮するVizポータブルリアルタイムCGシステムを出展した。



興和光学

同社では「imasterシリーズ」各種製品を出展。そのうち、新製品のスロット型マトリックススイッチャー「KS1208SL-00」は入力5種類、出力4種類の専用ボードを組合せる事でアナログRGBからHDMI (4K/30Hz)、3G-SDIまで幅の広い映像信号に対応することができる。スロット型マトリックススイッチャー。専用ボードは2系統入力/1ボード、2系統出力/1ボードとなっており、入力最大12系統、出力最大8系統の12x8のマトリックス構成が可能である。

また、マルチスキャンスイッチャー「KSM0401HM2」は、HDMI対応4入力1出力で、DVI/HDMI信号を含む様々な映像信号に対応したスイッチャーであり、HDMI対応のスキャンコンバータを内蔵し、入力された映像信号の解像度・アスペクト比の変換、スムーズな切替を実現する。出力部に



はHD BaseTに対応した「CAT5D.OUT」を装備し、デジタル映像信号の長距離伝送が可能。HDMI規格および HDCP規格に準拠している。